

資料

全国の市町村における障害児（学齢期）放課後支援制度に関する調査票

2007年10月

障害のある子どもの放課後保障全国連絡会（全国放課後連）

立命館大学人間科学研究所コミュニティプロジェクト

■自治体名（ ）都・道・府・県（ ）市・町・村・区

■回答された担当者の部署（ ）課（ ）係

TEL（ ）

以下、「2007年10月1日現在」の貴自治体における「学齢期の障害児」（小学校1年～高校3年）の放課後・休日の居場所を保障する支援制度についてお尋ねいたします。

質問1 現在、「学齢期の障害児（小学校1年～高校3年）」が利用できる各事業について、貴自治体において実施されているかどうか、あてはまるものに○を付けてください。なお、M、Nにつきましては、具体的な事業名を制度名の欄内にご記入ください。

		制度・事業名	有無		
A		放課後児童健全育成事業（学童クラブまたは学童保育）	1. ある	2. ない	
B		放課後子ども教室推進事業（放課後子どもプラン）	1. ある	2. ない	
C		児童館事業（自由来館等）	1. ある	2. ない	
D		全児童対策事業	1. ある	2. ない	
E	障害者自立支援法	介護給付事業	重度訪問	1. ある	2. ない
F			身体介護（見守り含む）	1. ある	2. ない
G			行動援護	1. ある	2. ない
H			短期入所	1. ある	2. ない
I			児童デイサービスⅡ型	1. ある	2. ない
J	地域支援事業	移動支援	1. ある	2. ない	
K		日中一時支援「日帰りショート」	1. ある	2. ない	
L		日中一時支援事業「障害児タイムケア」	1. ある	2. ない	
M		社会参加促進事業 事業名「 」	1. ある	2. ない	
N	自治体独自の単費事業		1. ある	2. ない	
	「ある」場合→	事業名「 」	/	/	
	→	事業名「 」			

質問2 質問1にて、「K 日帰りショート」が「1. ある」に○をつけられた自治体にお尋ね致します。

- (1) 貴自治体で「日帰りショートステイ」を実施している施設・事業所は全部で何箇所ありますか？

 箇所

- (2) 貴自治体の「日帰りショート」を実施する事業所への報酬単価を教えてください。
例／ 児童 「4時間まで〇〇円」「4時間～8時間まで〇〇円」など

質問3 質問1にて、「L 障害児タイムケア事業」が「1. ある」に○をつけられた自治体にお尋ね致します。

- (1) 貴自治体で「障害児タイムケア事業」を実施している施設・事業所は何箇所ありますか？

箇所

- (2) 貴自治体の「障害児タイムケア事業」の総予算額および事業を実施する事業所への報酬単価を教えてください。

①総予算額 円

②報酬単価 例／「半日〇〇円」「1日〇〇円」など

- ③貴自治体の「障害児タイムケア事業」の保護者の利用料額を教えてください。
例／「半日〇〇円」「1日〇〇円」「1回〇〇円」など

質問4 質問1にて、「N 自治体独自の単費事業」が「1. ある」に○をつけられた自治体にお尋ね致します。

- (1) 貴自治体が単費で独自に実施されている、学齢期の障害児が放課後、休日利用できる事業を実施している施設・事業所は全部で何箇所ありますか？

■事業名1 「」 箇所

■事業名2 「」 箇所

- (2) 貴自治体の独自事業の総予算額と実施する事業所への補助単価を教えてください。

例／ 20人まで4時間〇〇円 1時間当たり〇〇円 など

■事業名1 「」

①総予算額 円

②報酬単価 例／「半日〇〇円」「1時間〇〇円」など

■事業名2 「」

①総予算額 円

②報酬単価 例／「半日〇〇円」「1時間〇〇円」など

※お手数ですが、「日帰りショート」については報酬単価表を、また「障害児タイムケア事業」「自治体独自事業」について、①実施要綱、②実施事業所一覧をつけて返送していただけますとありがたいです。よろしく願います。 ～お忙しい中、ご協力ありがとうございました～

資料 障害のある子どもの放課後・休日の支援に関する調査

障害のある子どもに豊かな放課後・休日を保障したい。そうした思いのもとに、全国各地で様々な取り組みがなされ、それを支える制度も徐々に作られてきました。以前に比べれば放課後・休日に利用できる支援の種類や量が増えてきている地域も少なくありません。しかし、誰もが必要な支援を十分に受けられる状態には程遠いのが現状ではないでしょうか。

現在の実態をもとに、今後の支援のあり方を考えていく必要があります。

このアンケート調査の目的は以下の通りです。

- ①放課後・休日の支援の実態を明らかにする。
- ②子どもと家族にとって必要な放課後・休日の支援の内容を明らかにする。

調査結果は以下のように活用したいと考えています。

- ①放課後・休日の支援のあり方について、多くの人と共に考えていく。
- ②国・自治体の実態を伝え、必要な支援については充実を求める。

ご多忙のことは存じますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただけますようお願い申し上げます。



2007年11月17日

障害のある子どもの放課後保障全国連絡会（全国放課後連）
立命館大学人間科学研究所コミュニティプロジェクト

*本調査では以下のような支援についてお聞きします。

- ①学童保育（統合保育 昼間留守家庭を主な対象に放課後児童健全育成事業として実施されるもの）
- ②小学校の教室を利用した放課後活動（統合活動・文科省の放課後子どもプランに基づくものなど）
- ③児童館（児童館内の学童保育は除く、自由来館のこと）
- ④ガイドヘルプ・ホームヘルプ（自立支援法に基づくもの）
- ⑤児童デイサービス
- ⑥日中一時支援事業（主に日帰りショートを指す）
- ⑦障害児タイムケア事業（自立支援法・中高生を主な対象として放課後・長期休暇にほぼ毎日行われるもの）
- ⑧障害児のための学童保育・放課後活動（放課後・休日・長期休暇に週2～3日以上開所）
- ⑨長期休暇だけの活動（サマースクールなど）
- ⑩レスパイト事業（家族の休息等のための一時預かり。福祉施設・事業所が実施している）
- ⑪学校の部活動（放課後に行われるもの）
- ⑫塾・習い事
- ⑬スポーツクラブ（スイミングスクールなど）
- ⑭ボランティアサークル（集団外出など土曜日・日曜日や長期休暇に継続的に活動する）
- ⑮ボランティアの家庭派遣

お住まい：() 都・道・府・県 () 市・町・村・区

学 校：①特別支援学校 ②特別支援学級 ③普通学級

学 年：小・中・高 () 年生

主 な 障 害：①知的障害と自閉症 ②知的障害 ③肢体不自由 ④「軽度発達障害」 ⑤その他

介助の程度：①ほぼ常に付き添いが必要 ②部分的に介助が必要 ③介助はあまり必要ない

同 居 家 族：①父 ②母 ③きょうだい ④祖父母 ⑤その他 ()

父親の仕事：①フルタイム ②パートタイム ③就労していない

母親の仕事：①フルタイム ②パートタイム ③就労していない

Q 1. 現在、放課後や休日に何らかの支援を利用していますか？(どちらかに○)

- ① 利用している (Q 2 へ)
- ② 利用していない (Q 4 へ)

Q 2. 現在、放課後や休日に利用しているものに○をつけてください(表紙の区分を参照)。

- ①学童保育
- ②小学校の教室を利用した放課後活動
- ③児童館
- ④ガイドヘルプ・ホームヘルプ
- ⑤児童デイサービス
- ⑥日中一時支援事業(日帰りショート)
- ⑦障害児タイムケア事業
- ⑧障害児のための学童保育・放課後活動
- ⑨長期休暇だけの活動
- ⑩レスパイト事業
- ⑪学校の部活動
- ⑫塾・習い事
- ⑬スポーツクラブ
- ⑭ボランティアサークル
- ⑮ボランティアの家庭派遣
- ⑯その他 ()

Q 3. Q 2 で○をつけたなかで、あなたが最も必要としているものはどれですか？

Q 2 の選択肢から 1 つだけ選び、番号をお答えください ⇒⇒⇒ ()

選んだものについて、(ア)と(イ)にお答えください。

(ア) 利用の目的は何ですか？ 3 つまで選び、○をつけてください。

- ①保護者の就労
- ②保護者のレスパイト(休息・介護負担軽減)
- ③保護者同士の交流を深めること
- ④子どもが友だちや同年代の仲間と過ごすこと
- ⑤子どもが障害のない子どもと関わる機会をつくること
- ⑥子どもの成長・発達の土台を豊かにすること
- ⑦子どもが言葉やコミュニケーションの力などをつけられるようにすること
- ⑧交通機関の利用など、社会生活に必要な力を子どもにつけること
- ⑨家に居るばかりにならないよう、子どもの外出の機会をつくること
- ⑩その他 ()

(イ) お困りのことは何ですか？3つまで選び、○をつけてください。

- ①経済的負担が大きい ⇒ 1ヶ月のおよその金額 () 円
- ②利用できる回数・時間が少ない ⇒ 回数や時間 ()
- ③必要な時に利用できない(融通がきかない)
- ④対応するスタッフ・ヘルパー・ボランティアが一定ではないので不安がある
- ⑤スタッフ・ヘルパー・ボランティアに知識や技能が不足している
- ⑥活動内容が必ずしも子どもに合っていない
- ⑦子ども集団の性格が自分の子どもに合っていない
- ⑧送迎の負担が大きい
- ⑨保護者同士の関係が負担になる
- ⑩他の支援も様々に合わせて活用しなければならず、子どもの生活が安定しない。
- ⑪その他 ()

Q 4. Q 1で「利用していない」に○をされた方のみお答えください。
支援を利用していない主な理由に1つだけ○をつけてください。

- ①必要性を感じない
- ②利用するための保護者の経済的負担が大きすぎる
- ③運営に関わる保護者の負担(保護者会・バザーなど)が大きすぎる
- ④送迎のための保護者の負担が大きすぎる
- ⑤利用できるものがない(子どもに適した支援が存在していない)
- ⑥自分の子どもは利用できない(障害の種類などによる制限がある)
- ⑦事業所等に利用を拒否された(理由:)
- ⑧その他 ()

Q 5. 今後の充実・改善を期待する支援は何ですか？

現在の利用の有無に関わらず、2つまで選び、○をつけてください。

- ①学童保育
- ②小学校の教室を利用した放課後活動
- ③児童館
- ④ガイドヘルプ・ホームヘルプ
- ⑤児童デイサービス
- ⑥日中一時支援事業(日帰りショート)
- ⑦障害児タイムケア事業
- ⑧障害児のための学童保育・放課後活動
- ⑨長期休暇だけの活動
- ⑩レスパイト事業
- ⑪学校の部活動
- ⑫塾・習い事
- ⑬スポーツクラブ
- ⑭ボランティアサークル
- ⑮ボランティアの家庭派遣
- ⑯その他 ()

Q 6. 放課後・休日の支援によるお子さんの変化について。

(ア) よい変化はありましたか？感じておられることをご記入ください。
(遊びの幅が広がった、意思表示が積極的になった、など)

(イ) よくない変化はありましたか？感じておられることをご記入ください。
(様々な事業所・人と関わるため落ち着かなくなった、など)

Q 7. あなたが一番ほしいと思う放課後・休日の支援はどのようなものですか？
ご自由にご記入ください。



以上です。

ご協力ありがとうございました。

連絡先

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
立命館大学人間科学研究所 津止正敏研究室宛
電話 075-466-3317 / fax 075-465-8249
E-mail: houkagochousa@yahoo.co.jp

*全国放課後連について

障害のある子どもの放課後・休日の支援を発展させる運動を進め、子どもの発達と家族の生活が保障されるようにすることを目的としています。2004年に結成されました。放課後・休日の支援を行う事業所・団体の都道府県ごとのネットワークや、福祉施設職員、保護者などで構成されています。 ホームページ：<http://www.geocities.jp/houkagoren/>